

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 事業名           | 地域の食材集まれ！みんな元気に居場所づくり       |
| 事業主体<br>(連絡先) | キッチン和っこ実行委員会<br>東筑摩郡山形村 878 |
| 事業区分          | (2) 保健、医療、福祉の充実に係る事業        |
| 事業タイプ         | ソフト                         |
| 総事業費          | 573,107 円 (うち支援金：458,000 円) |

### 事業内容

- ①フードボランティアから地元の食材を提供いただき持続可能な仕組みを作り、休日の子ども達に食事を提供する。
- ②学習支援（栄養、伝統文化、教科など）の実施。子どもの貧困や悩みを行政に伝え連携した支援を行う。
- ③子どもたちを応援している大人（ボランティア）と触れ合うことで大人との繋がりを広げる。子どもの育ちを支えて、安心できる居場所の提供。



【カレーのテイクアウトの様子】



【うどん作りの様子】



【子供の居場所づくりの様子】

### 事業効果

- ①コロナ禍の中ではあったが、フードボランティアとして地域の方から野菜やお米の提供をしていただいた。昨年度、事業に参加した方がフードボランティアとして初めて2名参加した。感染対策として、食べ物は、テイクアウトとなり、地域食材を使い安全安心に食べられるものを講師に開発していただき食事として提供した。
- ②感染予防のため、開催場所の人数制限等があり少人数ではあったが、伝統文化や食育学習については、実行できた。うどんやおやきは、レシピを入れ家庭でも作れるようにしたところ、家でも作ってみた子ども達から聞かれ学習の効果があつたと感じた。
- ③ボランティアは、感染予防できる範囲で、毎回1～2名のボランティアをお願いした。また、講師は今後、ボランティアとして活動をお願いできる山形村在住の初めての方をお願いした。来年度は、ボランティアとして支えてくださることになっている。今後、継続したボランティア活動により子どもとのつながりが広げられると感じている。

### 【目標・ねらい】

- ①地元の食材をフードボランティアから提供いただき持続可能な仕組みを作り、休日の子ども達に食事を提供し食生活を改善する。
- ②学習支援（栄養、伝統文化、教科など）。子どもの貧困や悩みを行政に伝え連携した支援を行う。
- ③子どもたちを応援している大人（ボランティア）と触れ合うことで大人との繋がりを広げる。子どもの育ちを支えて、安心できる居場所の提供。

※自己評価【B】

【理由】

- ・1回の子どもの平均人数は目標より13人多かった
- ・継続利用した子どもは、目標人数を31人上回った。
- ・新たなフードボランティア2名。子どもボランティアは1名。今後、今年かかわっていただいた講師もボランティアとして参加予定。

今後の取り組み

コロナ禍では、今年度のようなテイクアウトと居場所づくりを継続実施する。感染が終息傾向になり対面での食事が可能になった時点で対面での食事の提供を開始したい。地域へ活動を広げるために、公民館等との連携を模索し、地区での開催を実施していきたい。

また、活動を継続していくためには、理解し協力してもらえる方たちを増やし、食材の提供や、ボランティアの育成に取り組みたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある